

「読む」力を高めるために

「物語の感想を一行詩に表すアイデア」ごんぎつね(四年)より

関西学院初等部 西 勝巳

1 はじめに

子どもたちがそれぞれに思い描いたイメージは、どのような形で表現されるのだろうか。子どもの胸中に描かれたイメージはなかなか表しにくいものである。作品のイメージを言葉で叙述させようとしても、それは叙述になり得ていないことが多い。あえて子どもたちが言葉に置き換えようとする行為は、叙述を通して自分の内面に新たな作品を創作することともいえる。

イメージが言葉になるということは、その子自身の解釈をくぐりながら、新たな想像力、思考力に力を与え、自分の読みとしてのイメージ世界を結晶させていく行為ともいえるだろう。

そこで、物語を一行詩に表すことで「読む」という表現活動を提唱する。俳句の五・七・五(短歌の五・七・五・七・七)のリズムを借りて、いくつかの場面が何らかの意味合いでぶつ

かったり、響き合ったり、矛盾したりすることで生み出される新しいイメージを表現させていく試みともいえる創作活動である。

2 一行詩感想のメリット

散文で書かれる初発の感想は生かしくいが、一行詩感想はいかしやすい

初発の感想を十分に生かすことはできるだろうか。ふつう初発の感想は読点だらけで、散文の広がりや曖昧さのため、印象が焦点化されていないことが多い。すべてを紹介するにも限界があり、教師の切り取りによる受け身の交流になりがちである。そこで一行詩による初発の感想が登場するのである。まずは、手軽にだれもがすぐに書ける利点を最大限に活用する。俳句や短歌のリズムにのせて書くことが、そのまま創作への意欲につながってこよう。イメージ、印象、情景、心情を各自の視点で焦点化して切り取ることは比較的

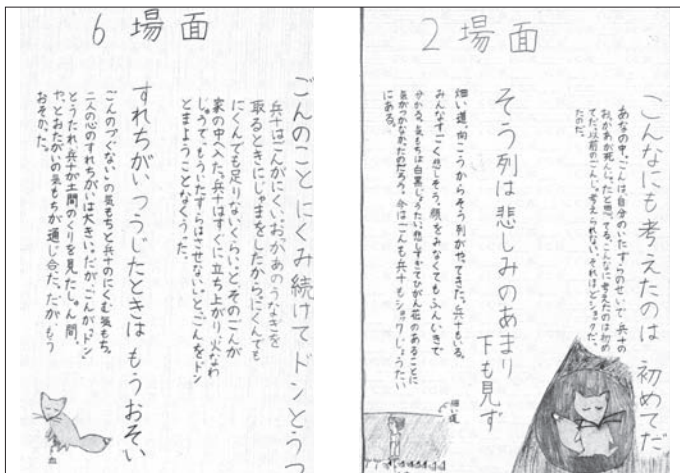
容易だと思われる。

- ・ 一行詩感想には空所空白が多い。これを読み手の想像力を刺激する。
- ・ 一行詩感想は作品を分析するレンズとなる。
- ・ クラス全員の感想が交流できる。これで友達のとらえ方との比較がやりやすくなる。
- ・ 一行詩感想は学習課題に発展しやすい。子ども主体での課題発見の可能性が高くなる。
- ・ 感想文嫌いな子どもでも、抵抗感が少なく書かせやすい。
- ・ 自分の立場をもちやすい。
- ・ 何をどう読むのかを明確にすることで、一行詩感想そのものが課題となつて読みの方向を決めることができる。
- ・ 個々の読みを揺さぶり、多様な解釈への道をひらくことができる。

3 進め方と活用方法

- ① 一行詩を場面と視点を決めて書かせる
 どのような視点から書くのかは、それぞれの自由である方がよい。ときには登場人物の立場に立たせたり、語り手の位置からとらえたりする指示もあるだろうが、その場合というのは、学習の観点がクラス全体でまとめられているときである。
- ② 場面の印象、人物の印象、情景をとらえて切り取る
 カメラのスナップショットのように、的確に切り取るのがコツ。ただし、本文の叙述を使ったり、生かしたりしながら表現させることが重要となってくる。
- ③ 一行詩感想を交流させる
 書きあがった一行詩感想を交流させていく。本文と読み比べながら、一行詩感想のイメージを追いかけるのである。自分の想像を補いながら友達作品を読み、作品の世界や内容をうまく切り取っているとされる一行詩感想を、子どもたちには選ばれる。その際の作品選択の観点として、次の六つを挙げておく。

- ・イメージが鮮明である
- ・心情が的確に表現されている
- ・自分の読みを補完してくれる
- ・自分の読みをこえたイメージや意味を内包している
- ・さまざまな解釈が見出せる
- ・学習課題にしてみたい



児童の一行詩感想

事例は、「ごんぎつね」の各場面には、どんな意味がこめられているのか。この作品のモチーフを考えながら、自分の読みを一行詩に表したものである。そして、その詩にこめた一行詩感想（思い・意見・解釈）を鑑賞文として、ひとつの表現に発展させていくのである。書けた一行詩と鑑賞文をクラスで交流し合って、「ごんぎつね」の世界を広げながら、子どもたちそれぞれに、自分の「ごんぎつね」観を築かせることと、自分の読みが確立できることを意図している。

物語を自分とのかかわりで読む視点。新学習指導要領の国語学習では大切にしたい機軸である。何よりも、子どもたちが物語を読みっぱなしにするのではなく、学習の足跡を確実に残し、またその地点からも新たに出発できるように創作活動の一助になることを切に願っている。

にし かつみ 神戸大学発達科学部附属校在職中
 より、国語科は技能教科であるとの視座から「話す・聞く」「書く」「読む」領域の表現力アップをめざした実践研究をしている。県下他校の研究テーマに合わせ、授業づくりの支援・助言を行っている。